慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	フィリップ・ヘンリー・ウィックスチードの「経済学の常識」
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1937
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.31, No.4 (1937. 4) ,p.623(123)- 656(156)
JaLC DOI	10.14991/001.19370401-0123
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19370401-0123

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

P. Studenski 編 Taxation and public policy, 1936

き起し、アメリカの財政も今後この線に沿ふて發展して行くであらうと豫期してゐる。この章で特に有用なのは章末の統計表である。恐慌が各國の租稅收入に如何なる變化を及ぼしたかを一九二九年と三四年とに分つて指示してゐる。國際聯盟の「世界經濟總觀」から作成されたものであるが、讀者を利すること大である。第十章以下十二章までは、ダルトン・スチュデンスキーの論文を集錄する。通俗且つ簡單な雜誌論文の程度を出でないが、たゞ新しい問題の生起を示す點で一般讀者を稗益するであらう。

フィリップ・ヘンリー・ウィックスチードの『經濟學の常識』

高橋誠一郎

一

吾人は別項『第十九世紀英國反正統派經濟學』に於いて、リカードオ・ミル學派に對して叛起し、所謂「經濟學の眞理論」を樹立せるウィリアム・スタンリー・ジェヴォンズに就いて論じ、而して彼れによつて企圖せられた經濟科學改造の事業が、自ら之れを遂行しつゝある人々によつてすら一般に悟了せらるゝ以上に遙かに進んだ點まで導かれたることを信じ更らに其の完成と擴張とに邁進せるフィリップ・エッチ・ウィックスチードに就いて述べ、其の一千八百八十八年の著『經濟科學のアルファベット』第一部『價値理論要義』の概要を紹介する所があつた。吾人は今、此の機に於いて是れよりして二十二年の後に公にせられた彼れの最大著『經濟學の常識』に就いて解題を試みんとする。

ウィックスチードは一千八百四十四年十月二十五日、リーズのチャールズ・ウィックスチード師（Rev. Charles

Wicksteed)の次男として產れ、ルーシン(Ruthin)文法學校、ユニヴァシチィ・カレッヂ・スクール、ユニヴァシチィ・カレッヂ、マンチェスター・ニュー・カレッヂに學び、六十七年、ユニテリアン宗の牧師と爲り、其の敎會堂の敎壇から神學を說き、次第に其の非正統派的傾向を濃厚ならしめ、翌六十八年ヘンリー・ソリイ(Henry Solly)師の長女エミリー・レベッカ(Emily Rebecca)と結婚、八十七年リットル・ポートランド街敎會堂を辭し、同年より一千九百十八年に亙り、彼れがユニテリアン宗牧師時代の趣味であつたダンテ、經濟學、ワーヅワース、希臘悲劇等に關する大學巡廻講師を勤め、一千九百二十七年三月十八日を以つて長逝した。(C. H. Herford, Philip Henry Wicksteed; His Life and Work, 1931.)。

彼れが初めて經濟學に興味を有するに至つたのは其の倫理學及び社會問題に對する關心からであつて、彼れはヘンリー・ヂョーヂの『進步と貧困』を讀んで初めて經濟問題に對する興味を喚起したと云はれてゐる。而して先づ彼れの經濟思想に最大なる影響を及ぼしたものはジェヴォンズの『經濟學理論』であつたが、初期墺太利學派、並びに一千九百〇六年、パレートオの Manuale di economia politica. 出版以後に於いてはローザーンヌ學派も亦彼れに影響を與ふる所が大であつた。パレートオの影響は前揭『アルファベット』と『常識』とを對照するによつて最も明かに之れを認めることが出來る。

二

ウィックスチードの理論經濟學に對する最初の寄與は、ジェヴォンズ流の分析を適用してマルクスの價値理論を批評せる一千八百八十四年十月の社會主義誌『現代』(To-Day)新輯第二卷に登載せる論稿 Das Kapital: A Criticism. であつた。(pp. 388-409.)。

勞働力の價値は之れを生產するに要せらるゝ勞働量によつて決定せられる、然るに之れが投費によつて這箇同一勞働力は之れを生產するに要せらるゝよりも大なる勞働量に鎔解する、斯くて或る人が勞働力を其の價値に於いて購入するならば、彼れは其の取引の終りに於いては、彼れが其の初めに於いて投入せるよりも以上の勞働（斯くて又、より以上の價値）を抽取するを得可きである――斯くの如きはマルクスの餘剩價値學說の支持せらるゝ推理の基調たる提言である。然るに、ウィックスチードに從へば、價値は「含有せらるゝ勞働量」に依存することなく、又常に之れと一致することがない。如何なる條件の下に於いて、そは斯くの如く一致するか。又、勞働力は果して是れ等の條件に從ふか。勞働が意の儘にA若しくはBの生產に自由に差し向けらるゝを得て、x日數の勞働がAのy單位若しくはBのz單位に任意に變ぜらるゝ際に、而も斯くの如き際に於いてのみ、A及びBの多寡が、恰もAのy單位が供給の限界に於いてはBのz單位と等しく有用なる底のものである迄、勞働は其の孰れかの生產に差し向けらる可きである。此の際に均衡は到達せられる。然るに若しCなる或る一定の貨物が存して、其の生產に對して、自己の意の儘なる勞働を有する人が其の任意に這般の勞働を差し向けることを得ないとしたならば、Cの價値は其の含有する勞働量と何等かの關係に於いて存するであらうと想像す可き如何なる理由も存することがない。蓋し其の價値は供給の限界に於ける其の效用によつて決定せられ、而して假設によつて這般の限界を高低するは勞働の力の外に存するが故である。斯くの如きものは實に勞働者が人格的に奴隸に非ざるあらゆる國に於ける勞働力の場合である。余にして若し、購入若しくは其の他の方法に依つて余の選擇する或る一定の目的に或る一定量の勞働を適用するの權利を取得したならば、余が奴隸飼育の可能なる國に住するに非ざれば、帽子の生產(例へば)又は勞働力の生產に任意に之れを差し向けることを得ない、斯くて又、其の作用に依つて勞働力の價値及び他の貨物の價

値を共れ共れ是れ等のもの〻中に含蓄せらる〻勞働量の比率に歸す可き如何なる經濟法則も存することがない。是に於いて乎、マルクスは、勞働力を其の價値に於いて購入せる人が其の消費よりして餘剩價値を搾取す可き資本主義的生産の如何なる内在的法則をも指示し得なかつた觀がある。吾人は單に、或る人が辛じて生計を支へ得る價格に於いて彼れの欲するだけ多くの勞働力を購入（生産ではない）することを得るの事實の上に投げ返さる〻に過ぎない。然も、此の事實は吾人が探求す可き問題であつて、問題の解決ではない。（The Common Sense of Political Economy and Selected Papers and Reviews on Economic Theory, ed. by Lionel Robbins, vol. II, 1933, pp. 722-723.）。

ロビンス教授は、是れを以つて、ビューム・バヴァーク及びパレートオに先立つ幾年の以前に起草せられたマルクス學説の最初の科學的批評であつて、又、或る點に於いては、そは依然として最も決定的のものたるを失はないと說いてゐる。（ibid., vol. I, pp. vii-viii.）。

當時マルクス社會主義者であつたバーナード・シューは一千八百八十五年一月の『現代』誌上に於いて之れに答ふる所があつた。（The Jevonian Criticism of Marx（A Comment on the Rev. P. H. Wicksteed's Article by Bernard Shaw), To-day, vol. III. (New Series), pp. 22-26.）。ウィックスチードは更らに之れに對して同年四月同一誌上に The Jevonian Criticism of Marx. A Rejoinder. を寄稿した。（To-day, vol. III. (New Series), pp. 177-179.）。而してシューは、彼れがウィックスチード死去の直後に述べてゐるが如く、結局彼れによつて說き伏せられたのである。（一千九百二十七年三月二十五日タイムス紙）。

三

ウィックスチードは一千八百八十八年、前掲『經濟科學のアルファベット』を出版して、彼れがジェヴォンズより學べる理論の中心の指導原理を再說せんことを期し、而してジェヴォンズの使用せる「終極效用」なる語に代へて、墺太利經濟學者ヴイザーの使用せる Grenznutzen の譯語「限界效用」（marginal utility）なる語を使用した。（Cf., Friedrich von Wieser, Über den Ursprung und die Hauptgesetze des Wirthschaftlichen Werthes, 1884, S. 129.）。

彼れは遂に本書の第二部を發免することなく、一千八百九十四年に至つて、別箇の著述 An Essay on the Co-ordination of the Laws of Distribution. を出版した。本論文は當時猶ほ未だ解決せらるゝことのなかつた問題、即ち如何なる割合に於いて、價格は「最後の貨物」の生産に共働しつゝある種々なる要素間に分配せらるゝやの問題を解決せんことを企圖せるものである。彼れ曰く、「各生産要素は生産者としての其の限界的能率によつて規制せらるゝ其の産物の配分を收受する。茲に吾人の手中に置かれた分配の一般法則が存する」と。（ibid., p. 8.）。即ち其の中樞の命題は、生産諸要素の各々が其の限界的能率によつて決定せらるゝ率に於いて酬いらるゝとしたならば、箇々の要素の報酬の總計は正確に其の收益を皆無ならしむると云ふに在る。後年彼れは幾分エッヂワース及びパレートオの批評に由つて、彼れが本論文中に採用せる論證の方法に不滿を感ずるに至り、是れを以つて早まれる綜合であつたと宣言し、其の『經濟學の常識』に於いて遂に之れが撤回せられたる旨を表明したのであるが、而も其の改說の範圍及び必要に關しては共に幾分の疑問が存する。

彼れは此の論文に次いで、一千九百〇五年には The Economic Journal. の第十五卷第五十九號に於いて、ヘンリー・ヒッグス（Henry Higgs）の序文を附して出版せられたジェヴォンズの經濟學原理に關する斷片的遺著 The Principles of Economics を紹介し、同六年には同誌第十六卷第六十四號に於いて、パレートオ（Vilfredo Pareto）

の Manuale di Economia Politica, con una Introduzione alla Scienza Sociale. を評論し、而して一千九百十年に至つて彼れの經濟學に對する最大の寄與たる『經濟學の常識』(The Common Sense of Political Economy including a study of the human basis of economic law.) を發表した。

ウィックスチードは本書の緒言に於いて、現代の經濟學が舊建造物の單なる修繕及び補強に非ずして、別箇の堂宇の新設であることを承認す可き時が到來したと述べてゐる。(ibid., p. 2.)。アルフレッド・マーシャルは古典的經濟學者の事業を破壞するが爲めに來らずして、彼れ自らの思惟せるが如く、之れを成就するが爲めに來つた。然るにウィックスチードはジェヴォンズ及びメンガーと共に、舊經濟學の完全なる建替を必要と觀る。前者が修正主義者であるならば、後者は革命主義者であつた。(Lionel Robbins, Introduction to the New Edition of "The Common Sense of Political Economy", op. cit., vol. I, p. xvi.)。マーシャルの『原理』とウィックスチードの『常識』との間の相違は最も明瞭に限界效用の根本概念の使用に現れてゐる。マーシャル及びマーシャル學徒に取つては限界效用は均衡理論の主部に於いて小なる役割を演ずるに過ぎない。そは市場の理論に對する修飾である。マーシャルの價値及び分配理論の主要なる實體は費用に關する。遞減的限界效用の法則はマーシャル及び其の亞流に取つては、彼れ等が均衡の考察から福利の考察に移れる時に於いてのみ重要性を有することゝ爲る。然るにジェヴォンズ、メンガー及び其の學徒に取つては、限界效用概念の發見は本質的に分析經濟學の主部の變革を意味する。彼れ等の手中に在つて、限界效用の概念は經濟均衡理論の全叙述を變更するの武器と爲つた。(ibid., pp. xvi-xvii.)。

四

本書は三編に分たれる。彼れは先づ第一に限界的分析の系統的說明を行ふ。

吾人が「經濟」(Economy)なる名辭の現在の意味(浪費を避くること)を其の語原的意味(一家の管理)の上に附加するならば、「經濟」の概念は「浪費を避け、能率を確保するが如き方法に於ける一家の事務及び資源の管理」と爲らなければならぬ。「政治的」經濟は、類推によつて、擴張せられたる家若しくは社會として看做され而して中央の權威によつて規制せらるゝ一國の事務及び資源の同樣の管理を指示する。而して「政治的經濟」(Political Economy)の研究は一社會の資源が浪費なくして共同の諸目的を達成するように規制せられ管理せらる可き諸原理の研究たる可きである。(ibid., p. 14.)。「經濟學」(Economics)は一個人、一家、一企業若しくは一國家の孰れを問はず、其の資源管理の一般原則の研究を包含し、總べて斯くの如き管理に在つて浪費の生ずる諸方法の檢討を含有するものと解せらるゝを得可きである。本書の目的はより狹くして、現代的なる意義に於ける「政治的經濟」の諸問題を說明するに存する、即ち讀者をして產業的並びに商業的生活の機構及び自發的組織を理解せしむるに存する、而も、同時に、這般の理解は其の最廣の範圍に於ける「經濟學」の徹底せる豫備的研究、即ち何等の形式的若しくは因襲的制限なくして考案せらるゝ資源の管理並びに交替物間の選擇の諸原理の研究によつて最も能く達成せられ得ることを著者は確く自信する。(ibid., p. 17.)。

著者は一家資源管理の研究から始めて、市場に於いて購入を行ひ、商店に於いて買物を爲し、商人に註文を爲す等に際し、一家の主婦は其の金錢上の資源を管理し、貨幣をして出來得る限り效果あらしめんと試みつゝあるものであり、而して彼の女の買物が家庭に齎されたる時、彼の女は尙ほ、是れ等のものをして及ぶ限り效果を現はさしむるように種々なる要求者等（其の欲望を是れ等のものが到底完全に滿足せしむること能はざる可き）の間に之れを分配する往々にして微妙且つ困難なる事業たる類似の任務を有することを注意する。(ibid., p. 19.)。彼れに從

へば、「注意」は管理せられなければならぬ所のものであつて又屢々浪費せらるゝことあるものゝ中に含められる。生活の術は吾人のあらゆる種類の肝要なる資源を有效且つ經濟的に分配するの術を包含する、而して一家の管理は時間の節約の爲めに貨幣に於いて、又は貨幣の節約の爲めに時間に於いて、若しくは麵麭、馬鈴薯又はクリームに於ける節約の爲めに思索と精力とに於いて高價に過ぐる支拂を爲すことあり得可き這般の術の一部門である。洵にあらゆる購入は事實上交替物間の選擇を包意するが故に、等しく他の選擇の行爲にも亦、適用せられ得る諸原理によつて指導せられる。是れ等のものを了解するが爲めには吾人は選擇の心理學を研究しなければならぬ。市場に於いては、這般の問題は貨幣價格の名辭に於いて現はれる。一物件の價格は購買者に對して開かれたる交替物の範圍を示すものであり、又、交替物が吾人に對して提供せらるゝ條件の特殊の場合である。(ibid., pp. 20-21.)。吾人は恒に一見異質的なる願望の目的物を相互に比較し、而して吾人が是れ等のものを取得し得る條件に從つて是れ等のものゝ間に選擇を行ひつゝあるのである。吾人が相互に均衡を保たしめ且つ比較する欲望及び追求(積極的及び消極的)のあらゆる目的物の總べては、是れ等のものが貨幣に代へて取得せられ得ると否とを問はず、觀念上吾人の心胸中に於いて一般的選擇のスケール、相對的評價のスケール、若しくは相對的重要性のスケールに排列せらるゝを得るのである。(ibid., pp. 32-33.)。

五

次いで、ウィックスチードは遞減的心的收益(diminishing psychic returns)に就いて述べる。一貨物若しくは他の願望の目的物が吾人の供給に對する或る一定の附加の重要性は供給の增加するに連れて下降する。「おかはりは如何も初めほど甘くない」と小供は其の二皿目のジャム・ロールを平げた時に深い溜息をついて云つた。(ibid., p. 40.)。吾人は常に吾人が限界的勤務、限界的消費、限界的重要性、限界的投資、限界的增加量等を考察しつゝあるを發見する。限界的考察は總べて吾人が領有し若しくは考察しつゝある或る物の在高の僅少なる增減に關する考察である。總べて或る物の吾人の供給を增加するによつて、吾人は其の限界的重要性を減少し、而して吾人の選擇のスケールに於ける附加的單位の位置を低下する。斯くて家婦が市場に於いて看出す或る一定貨物の價格が如何にあるにせよ、彼の女に對する其の限界的重要性が其の價格よりも高き間は彼の女は購入す可きであらう、然しながら彼の女自身をして增加せる在高を領有せしめつゝある行爲其の者は其の限界的重要性を減少する。而して彼め女が購入すると愈々多ければ、そは愈々低きに至る。そをして市場價格と一致せしむる高は彼の女の購入す可き高である。(ibid., p. 41.)。而して總べては市場價格に於いて購入せらるゝも、供給の初めの增加量の總べては限界に於ける其れよりも高き價値を有するが故に、吾人の取得する滿足は吾人が之れに對して支拂ふ價格以上に價値あることゝ爲る。惟り限界に於いてのみ、取得せらるゝ物と之れに對して支拂はるゝ價格との間に適合が存する。(ibid., p. 43.)。

吾人にして若し一定條件を以つて相互に物件を交換し、若しくは是れ等のものゝ間に選擇を行ふことが出來るならば、吾人は他のものを棄てゝ更らに價値ある物の吾人の供給を增加することが出來る。是れに由つて一方の限界的重要性を低下し、他の其れを高めて、終には是れ等のものゝ重要性は、そが交替物として取得し得る代償と適合する。此の點が到達せらるゝ時には、均衡(equilibrium)が存するのである。若し所有者にして彼れに對して開かれたる條件に於いて、貨物の如何に小なるものであつても其の一部分を他のものゝ之れに相當する部分と交換するによつて利得す可きことを知るならば、均衡は存することがない。(ibid., p. 66.)。而して成功せる物資管理は斯く

の如き均衡を確立し維持するに存する。(ibid., p. 76.)。ウィックスチードは這般の原理を閑暇と貨幣、空間、時間及び努力の管理、並びに知識的、道德的若しくは精神的事項にも擴張する。(ibid., pp. 76-80.)。斯くの如き交換又は選擇を爲すに際しては吾人は其の取扱ひつゝある事物の豫期せられたる價値によつて指導せられる、而して吾人が過誤を爲し、其の取得せるものと之れを取得するの代償との間に限界的適合を確保することを過つたとしたならば、吾人が過つて支拂つた價格は、吾人が之れに對して支拂へる物件の價値に影響することがない。(ibid., pp. 88-91.)。

第三にウィックスチードは經濟的管理と其の困難に就いて述べる。限界的重要性と市場價格との間の理想的適合は經費の種々なる部門を相互に有效なる關係を保たしむるの困難(difficulty of interdepartmental communication)及び吾人が常に諸物を正確に其の欲する數量に於いて取得すること能はざるの事實によつて妨げられる。(ibid., pp. 96-100.)。吾人は又食料の如く吾人が之れを使用する際に支拂ふ物と、家具の如く一度に支拂ひ、而して長期に亙つて使用する物に對する經費の間に平衡を保たなければならぬ、而して總べての經費が等しく所得から支拂はれなければならぬならば、吾人が經常費を切詰めつゝあるのであるが、而も未だ吾人が其の爲めに節約しつゝある更らに永續的なる領有を確保することのない節約の期間は吾人が享樂なくして支拂ひつゝある不自由(privation)の期間であるであらう、而して吾人が支拂ふことなくして享樂しつゝある他の期間が之れに次いで生ず可きであらう。(ibid., pp. 101-107.)。諸般の賃借の制度は吾人をして支拂の期間を使用の全期間に亙らしめ、斯くて又、第一の期間の比較的窮乏を第二の期間の比較的豐富を犧牲として救濟するを得せしむる方法である。賃借は又吾人をして分割すること能はざる貨物に就いて吾人の欲望する一部を享有することを得せしめる。斯くの如き利益に對して吾人の支拂ふプレミアムは利子の源泉の一である。斯くて限界的調整の原理は吾人の資源管理の總べてに行き亙つてゐる。大小の單位、急速に朽廢し易き貨物の消費と比較的永續的なる貨物の使用、購入と賃借、現在及び將來に對する願望及び計畫、物質的及び精神的所要は總べて其の支配を受ける。(ibid., pp. 107-114.)。

著者は、資源の浪費に資し又吾人を妨げて其の自由に使用し得る資源が吾人をして確保するを得せしむる滿足の充分なる量を實感せしめざる一定の心的習性の考察に本章の殘餘を捧げる。即ち吾人の資源管理を攪亂する誤れる類推及び習慣、環境及び無訓練なる心的習性によつて生ぜしめらるゝ錯覺が是れである。(ibid., pp. 114-122.)。而も吾人が如何に完全に斯くの如き客觀的及び主觀的なる管理の困難と過誤とを征服したとしても、吾人が其の手段を使用する窮極の重要性は吾人の諸目的の本質に依存しなければならぬ。選擇のスケールは人間の性格を反映する。(ibid., pp. 122-124.)。

六

著者は個人的及び家事的經濟より政治的經濟に移るに際して、貨幣及び交換の本質及び職能並びに「經濟生活」、「經濟的關係」、「經濟的條件」、「經濟的動機」及び「經濟力」と云ふが如き諸辭句の意味を說明する。

總べて或る交換し得る兩物件の相對的重要性が其の社會に於ける或る二個の人のスケール上に於いて限界的に相異なる時には有利なる交換が起り得る、而して交換其の者は這般の相違を減少するに資する。斯くて均衡が存する時は、あらゆる人のスケール上に於ける交換物件は同一の相對的位置を占めなければならぬ。斯くの如き位置を表示しつゝあるスケールは社會的若しくは團體的スケールと看做されることが出來る。(ibid., p. 126.)。然しながら、吾人が選擇のスケールの上には全然交換し得ざる幾多の物件の存することを認めなければならぬ。或る人は他

の人の數學の知識と交換して之れに自己の支那語の知識を讓渡せんことを欲し、他の者は又其の取極めを歡迎することがあるであらうが、而も交換は起ることを得ない。他方に於いて自己一身の使用の爲めに農産物を栽培した二人の者が彼れ等の限界的選擇が相違し、一人のスケール上に於いて馬鈴薯が比較的高き位置を占め、他の者の其れに於いては穀物が比較的高き位置を占むることを看出したならば、彼れ等は交換によつて調整を行ひ、相互に利益を得ることが出來る。或る場合に於いては、彼れ等の各々が、彼れにして若し全事情を豫見したならば、之れと等しき究竟の平衡を交換を俟たずして直接に確保するように自己の個人的作業を指導す可かりしことが想像し得られる。斯くの如き場合には此の二人は曩きの支那語と數學の研究者の如く最初の過誤を爲したものであるが、而も彼れ等は彼れ等と異り、交換によつて部分的に、若しくは完全に其の過誤を救濟することが出來る。然しながら、交換が起るには畢竟何等かの過誤がなければならなかつたと想像する必要はない。分勞の經濟を利用する複雜なる産業の組織は手段をして目的に適合せしむる機構の至要部分として、最初から交換を豫期する。(ibid., pp. 128-133.)。

斯くの如く組織せられた社會に於いては、交換の媒介物及び價値の標準が自然に發生して、次いで法律によつて規制せられる。(ibid., pp. 135-137.)。媒介物及び標準としての金の使用は貨物としての其の使用に依存する。(ibid., pp. 138-141.)。貨物の金價格は金との關係に於ける團體的スケール上に於ける其の位置の表現なるが故に、相對的に相互に對する是れ等のものゝ位置の表現並びに是れ等のものを領有する人々の總べての個人的スケールの上に於ける是れ等の相對的位置の同等の表現と爲るを得きである。(ibid., pp. 141-145.)。然しながら、這般の同等は交換せらるゝこと能はざる物件に及ぶことがない。個人的スケールの上に於ける交換し得ざる品目は團體的スケールの上に表現せらるゝことなく、又相異れる個人的スケールの上に於いて、交換せられ得る品目の中に在つて、同等の位置を取ることがない。或る人が何等の貯へをも有せざる交換物件も亦然る可きである。(ibid., pp. 145-147.)。

願望の究竟對象は斷じて交換の圈内に入ることがないが、而も決して交換の圈内に入る諸物件の助けなくして確保せらるゝを得ない。吾人が屢々「金では得られない」と稱する物の總べてを吾人は等しき眞理を以つて金なくして得られ若しくは享樂せらるゝことを得ないと稱するを得可きである。一家の平和と幸福とは貨幣では得ることが出來ないが、而もディッケンスのドクトル・メリーゴールド(Dr. Marigold)は、彼れ等が荷車の中に生活したとするならば、直ちに離婚裁判所に向つて進む可き幾多の夫婦が家屋の中に於いては平和に幸福に一緒に暮すと云ふ意見を有してゐた。(ibid., pp. 152-153.)。現實なるか若しくは可能なる領有は洵に生活に取つて必要であるが、而も是れ等のものが增加する時は、其の生活に對する限界的重要性は減少する、而して是れ等のものによつて生活を支ふる代りに生活を是れ等のものゝ犧牲とするの危險が發生する。アリストートル曰く、全然定限なき手段の蓄積を願望する者は惟り何等確定せられた目的を有せざる人のみであると。(ibid., pp. 155-156.)。

而して著者に從へば、經濟生活は吾人が他の人々と共に結び、而して自己の目的を促進する間接の手段として他の人々の目的の促進に吾人自身又は吾人の資源を貸す諸關係の複合の總べてより成る。(ibid., p. 158.)、經濟的條件なる辭句は一社會の人民の享有する交換せられ得る諸物件の一般的支配を意味し、這般の支配の範圍、又恐らくは其の本質に從つて吾人は是れ等の條件を善若しくは惡、有利若しくは不利と稱するのである。(ibid., p. 162.)。多數の著者は、經濟學者は經濟學者としては、啻だに交換せられ得るものであり、又主として物質的なる物件に關する一定の行爲及び條件に其の考察を限らざるを得ざるのみならず、又「經濟的」ならざる總べての「動機」を考察の

外に逐ひ出さなければならぬと思惟する。而して經濟的動機は概して「富を領有せんとするの願望」として定義せられる。是れと關聯して、富の最廣なる定義は之れをして總べての交換せられ得る物件を包含せしむるも、而も他の何物をも包含せしむることがないであらう。扨て、吾人は既に如何なる欲望の究竟對象も畢竟交換の直接目的物たるを得ざることを見たが故に、吾人は直ちに所謂「經濟人」を以つて專ら富を領有せんとするの願望のみによつて動さるゝものと看做すは、單に道具を集めんと願望しつゝあるものであつて斷じて是れ等のものを以つて何物かを爲し若しくは何物かを造らんことを願望することなきものとして彼れを思惟するものであることを認める。加之、吾人は交換せられ得る諸物件の間に於ける或る人の選擇を相互に對して規制し、均衡せしむる法則其の者は又富と例へば閑暇との間に於ける彼れの選擇、即ち交換せられ得る物件の更らに大なる支配力を取得すると彼れが既に支配權を有するものゝ更らに滿足なる享樂を收むるとの間に於ける、若しくは交換せられ得る物件の支配と苦しき努力よりの免除との間に於ける彼れの選擇を規制し、均衡せしむるものであることを知つた。是に於いて乎、「富に對する願望」を同時に安樂に對する願望又は享樂に對する願望に關係せしむることなくして其の作用を檢討するは不可能である。(ibid., pp. 163-4.)。斯くて畢竟「經濟的動機」なる名辭を使用するは殆んど何等の意義なきが如くである。(ibid., p. 165.)。

吾人が他人との關係の廣大なる範圍は、單に吾人が自己の目的を促進する間接の方法として相互の目的を促進する相互的調整の組織中に入るのである。總べて斯くの如き關係は宜く「經濟的」と稱せらるゝことが出來る。「經濟的關係」の組織なる語によつて、吾人は吾人をして其の直接に支配する力及び所有物を交換圈の或る點に於いて投入して、同一點に於けると或る他の點に於けるとを問はず、他の所有物若しくは他の力の支配を引き出すことを得せしむる組織を了解する。(ibid., pp. 166-167.)。最後に「經濟力」は宜く人々を驅つて相互に經濟的關係に入らしむる總べての物質的及び心理的條件の合成的抑壓を指示するが爲めに使用せらるゝを得可きである。(ibid., p. 167.)。而して彼れは又「經濟的條件」なる名辭が屢々使用せらるゝ第二の意義を以つて、經濟的活動に於ける流れの變化を決定する考慮と做してゐる。此の意味に於いては、經濟的條件に於ける變化は交換し得らるゝ物件の支配に於ける一般的加增若しくは減退を意味す可きものではなく、一種の能力又は資源の領有は或る人を其の目的の間接の達成に取りより、より良好なる地位に入らしめ、又他種のものゝ領有は爰きに存したよりもより、劣惡なる地位に入らしむることを意味す可きである。(ibid., p. 169.)。

是れ等の概念の擴張せられたる論述は次ぎの如き命題に歸結する。恐らく最後のものを除いては、其の何れのものと雖も、現今の經濟學の論述中に一樣に、若しくは充分に承認せられざるが如くである。(a)經濟的關係は人類の目的及び衝動の全範圍の鼓舞に於いて參加せしめられ、而して何等排他的若しくは特殊的態樣に於いて利己的若しくは自愛的基礎の上に止まるものではない。(b)經濟力及び關係は社會的不正を矯正し若しくは分配的正義の或る一定の理想的體系と提携する固有の傾向を有するものではない。(c)經濟的關係は孤立せしめられ得ると做すの假定は、縱令ひ單に最初の概當に過ぎざるものと看做さるゝにしろ承認せらるゝには餘りに遠く事實から離れて居り、如何なる場合に於いても無用であり、不必要なる可きである、而して經濟的關係は又自然にあらゆる接近の程度に於いて他の關係と結合せしめらるゝと等しく其れ自體是れ等の他の關係を生ずるの傾向を有する。(d)然しながら經濟的關係及び經濟力の孤立せしめられた研究を行ふは、正當であり又望ましいことである、是れ等のものが現實に離れて存在し又作用すると云ふ假設の上に於いてゞはないが。(ibid., pp. 169-170.)。

而してウィックスチードは既に主たる概念をより廣汎なる心理的領域の上に說明し、而して其の作用を規制する主たる法則を設定せるが故に、今や是れ等の概念及び法則の經濟問題に對する特殊の適用を研究するを以つて可能であり、從つて又說明を明瞭ならしむるに資するものと觀て、經濟力を著しく孤立せしめて研究せんとするのである。(ibid., p. 211.)。

七

ウィックスチードは經濟力及び經濟關係の性質及び重要性に關する枝論から本論に立ち歸つて、其の中心の問題を提示する市場及び市場價格の組成を檢討する。市場は交換せられ得可き物件の限界的重要性に於ける均衡が生ぜしめられ、維持せられ、若しくは回復せらるゝ機關である。(ibid., p. 213.)。當該貨物の限界的位置が供給を取得したる總べての者の相對的スケール上に於いて同一であり、而してそが何等の供給をも取得せざる或る者のスケールの上に於けるよりも總べて彼れ等のスケールの上に於いて高い際には均衡が確立せられる。其の位置が如何にあるであらうかは分配せらる可き貨物の高に依存する。蓋し吾人の既に見たるが如く、余が何等かの貨物を領有すること愈々多ければ、そは限界に於いては余の相對的スケール上に於いて愈々低く立つが故である。斯くて若し消費者等の間に於ける均衡が彼れ等のスケール上の或る一定點に於いて確立せられ、而して培養者が猶ほ比較的過剩に貯藏品を有し、斯くて又更らに其れ以上の交換を遂行するを以つて彼れ等の利益と見たならば、這般の繼續せしめられたる分配は更らに一層消費者等の供給を增加せしめて、總べて彼れ等のスケール上に於ける該貨物の限界的重要性を低下す可きである。是に於いて乎、分配せらる可き貨物が愈々多く存するならば、均衡が結局に於いて到達せらるゝ幾多の個人的スケールの上に於ける、斯くて又集合的スケールの上に於ける位置は愈々低かる可きである。斯くて收穫の高及び其の貨物の選擇のスケールは均衡が到達せらる可き集合的スケール上に於ける點、即ち吾人が貨物の均衡價格又は價値と稱する所のものを決定する二個の究竟要件である。(ibid., pp. 216-217.)。

賣手は價格を決定するとはないが、而も消費者等の集合的意向を反射する。(ibid., p. 217.)。ウィックスチードは市に出でゝ買物を爲す典型的なる人と彼の女に對する賣手の關係に就いて次ぎの如くに述べる。賣手が彼の女より求むる所のものを決定するは、主として他の者等が與へんとする所のものである、而して極小の程度に於いて、賣手が他の者等より求むる所のものを決定するは彼の女が與へんとする所のものである。是に於いて乎、購買者が市場に於いて遭遇する所のものは、賣手の心意から投げ返さるゝ彼の女自身の心意の反射並びに彼の女の比儔の其れに過ぎざるものである。彼の女が其の注視しつゝ目的物が其の眞に存するが如く魚商の扁板若しくは商臺の正面に存することなくして、其の見掛けに於けるが如く、實際に於いて之れが背後に存するものと信ずるは單に鏡の執拗なる錯覺によつてゞある。是に於いて乎、賣手によつて表示せらるゝ價格を決定するは、彼れ等によつて豫測せらるゝ底の購買者の集合的意向である。販賣者等は彼れ等の能力の及ぶ限り、集合的スケールを察知し、而して箇々の購買者に彼れ等の判斷を表明する。余が完全に汝の心意を察知することが出來たとしたならば、余が余の心中に定めんとする或る一定の價格に於いて汝が幾許の茶若しくは果實を購入せんとするかを知る可く、又、余が汝をして正確に二十五單位を購入せしめんことを欲したならば、余は汝をして斯くの如く爲さしむるが爲めには如何なる價格を定む可きかを知る可きである。同樣に、余が完全に他の購買者の總べての心を察知することが出來たならば、余は彼れ等の各々が或る特殊の價格に於いて正確に幾許を購入す可きか、又、彼れ等の購入の總高をして或る一定の額に到達せしむるが爲めには余は如何なる特殊の價格を定めざるを得ざるかを知る可きである。彼れ等が其の購

買を終りたる時、彼れ等の各々は恰も彼れが該價格に於いて購はんと欲したるだけを取得せるが故に、ストックの限界的單位は總べて彼れ等のスケール上に於いて同一位置を占む可く、而して該位置は之れを一定せられたる價格に平等化せしむるものたる可きである。是に於いて乎、均衡は存す可きである、換言すれば、其の貨物の限界的增加量はあらゆる相對的スケールの上に於いて同一の位置を占む可きが故に、該貨物に對する交換の條件は最早存在することなかる可きである。(ibid., pp. 218-219.)。此の均衡價格を知るは取引を行ふ各個の者の利益である、而して彼れの形成することある可き之れに關する何等かの誤れる算當は彼れをして其の報いを受けしめつゝある間に其れ自體を矯正するの傾向を有す可きであるが、而も均衡價格其の者の上に第二位の反動を有す可きである。(ibid., pp. 224-228.)。

次いで著者は市場の法則を構成する、曰く、滿足せらるゝ一單位に對するあらゆる願望は滿足せられざる一單位に對するあらゆる願望よりもスケールの上に於いて客觀的に高く立たざるを得ざるが故に、市場に於いてx單位の貨物が存するならば、是れ等のものはスケールの上に於いて一單位に對する最高なるx願望を滿足するが爲めに赴く可きである。而して總べての單位が販賣せらるゝ價格は同一なる可く、又滿足せらるゝ一單位に對する最低の願望の重要性によつて決定せらる可きが故に、集合的スケール上に於ける第x單位の位置が市場價格を決定す可きことゝ爲る。(ibid., p. 228.)。

集合的スケールは啻だに買手の算當のみならず、留保價格に於ける賣手の算當をも亦表記する、賣手は斯くの如き價格に於いては買手と同等である。是れに對しては幾多の理由存す可きであるが、最も明瞭なるものは、財貨が賣手自身に取つても直接の用途あることである。(ibid., p. 229.)。又、自己の個人的欲望に應ずるの目的を以つて自己の爲めにするに非ずして、他の人々の欲望を豫知して留保價格が設けらるゝ場合がある。斯くの如き代理的若しくは投機的算當は其の貨物の消費を規制するに資する限りに於いては貴重なる社會的勤務を遂行するも、そは屢々斯くの如き限界を超越し、社會的に有害と爲る。(ibid., pp. 234-248.)。幾多の市場の種類及び販賣の形態存するも、自由交通の至要條件並びに相互の所爲に關する知識が關係者等の間に體現せらるゝ限りに於いては、是れ等のものは總べて同一の法則に從ふ、而して其の然らざる場合に於いても、人々の行爲は尙ほ、條件が有利なる所に於いては幾分完全なる市場を創造する同一根本法則及び力によつて統制せられる。(ibid., pp. 248-258.)。原料市場は精製品市場に等しき法則に從ふ。(ibid., pp. 258-261.)。

八

ウィックスチードは次章に於いて、市場の一般法則の支配を受くるものではあるが、極めて煩はしきものと認められ、而して極めて多くの奇論を生ぜしめたるが故に、特に之れを論述するの要を認めたる特種の取引を檢討する。利子の現象は經濟學者と等しく神學者及び道學者の注意を惹起した。カルヴィンは率直に利子の受領を擁護せる最初の大神學者たるの名譽を有するものであり、可能的に（而も蓋然的ではなく）ラスキンは之れを痛罵して廣く公衆を傾聽せしむるに成功せる最後の大道學者及び改革家として記錄せらる可きであらう。然もそは兎に角として、此の主題に關して記述せられたる總べてを見るも、利子の眞の本質、他の經濟的現象に對する其の關係、並びにそが其の表明たる諸力の作用は猶ほ理解せらるゝこと極めて不完全なるの觀がある。(ibid., p. 267.)。

彼れは先づ或る者の欲望の最大且つ最良の滿足と或る者の所得の流れの間の關係を注意する。後者は規則正しいであらうが、欲望の適當にして且つ最大なる滿足の爲めに要求せらるゝ經費は不規則なることがあり得可く、又不

規則なるの常である。斯くて吾人は吾人に對する其の奉仕が短き一定の諸貨物及び其の奉仕が著しき期間に亙れる他のものを購入するを要し、前の場合には經費は毎日又は毎週、若しくは比較的頻々たる間隙に於いて繰り返さるゝを要し、後の場合には比較的長き間隙に於いて――或る場合には、恐らく、一生涯に於いて僅かに數度反復せらるゝを要する。(ibid., pp. 267-269.)。後の種類の經費に應ずるが爲めには、前以つて蓄積が行はるゝか、若しくは將來の收入が豫知せらるゝかしなければならぬ。(ibid., p. 271.)。一生涯の所得が是れ等の經費に對する必要と時期に於いて相應するが如き態樣に於いて發出することは縱令ひ絶無ではないとしても、極めて稀れであり、又此の事柄に關する二個の人物の場合は何れも正確に等しくない。一社會、一國、若しくは世界に於いて相互に商的關係に於いて存する人民の間に、あらゆる可能なる種類及び程度の相違が發生することある可きである。或る人は彼れにして若し其の資源の流れを一定期間の最後の部分に於いて之れを弛緩ならしむるの損失に於いて其の最初の部分に對して之れを促進することを得たならば、一層經濟的に其の期間に對して彼れの資源を管理するを得たる可く、而も他の者に取つては事情は反對である。又兩者は同一の事情に於いて存し得可しとしても、而も一方に取つては、豫見の利益は他に對するよりも比較的に大なるを得可きである。是れ等兩者の間に交換の條件は存する、而して若し、均衡が到達せらるゝ際に、豫見に對してプレミアムが存するならば、そは利子の現象の一泉源を構成する。(ibid., pp. 274-277.)。

個人の間に於ける斯くの如き相違は蓄積、節約及び前拂の現象を生ずる。單なる貴金屬並びに之れに類するものゝ貯藏は明かに蓄積過程の頗る小なる部分を構成するに過ぎない。道具、家屋、被服等の如き長く使用し得る貨物(long-service commodities)の構成に絶えず勞働を投入するあらゆる者は、恐らく自己の爲めではないが、蓄積しつゝあるのである。彼れは使用せらるゝこと短き貨物(short-service commodities)によつて、日毎に、若しくは週毎に支拂はれ、若しくは買ひ受けらるゝを得可きである、而して其の場合に於いては蓄積しつゝあるは彼れに支拂ふ人である。而も何れにしても蓄積は繼續しつゝあるのである。(ibid., p. 277.)。他所に於けると等しく、蓄積の過程に於いても、交換の機關及び分勞の原理が作用する。余にして若し一家屋を有するが爲めに十年間蓄積するとしたならば、余は恐らく十年間に亙れる努力によつて余自身に之れを建築するとも、又斯くの如く之れを建築するとに對して他人に支拂ふともないであらう。實際に生ずる所のものは原則上幾分次ぎの如くである。貯蓄銀行及び之れに類する媒體によつて貯金(即ち交換圈から物を引き出すを差控へたるもの)の最小なる流れ及び滴りが一緒に集められ、而して絶えず長く使用せらるゝ貨物――其の或る物が家屋たる――に合體せしめらるゝやうに多數の人々が、概して無意識的に合同するのである。吾人は又次ぎの如くに云ふことが出來る。毎週、余は使用せらるゝと短き貨物を節し、而して長く使用し得るか若しくは徐々に成熟しつゝある貨物に他人の盡力を體現するが爲めの支拂として彼れ等に之れを讓渡することを得可きである。節欲は余のものであつて、彼れ等のものではない。彼れ等は其の盡力に對して直接の報酬を享受しつゝあつたのであるが、而も余は、彼れ等を通じて、蓄積しつゝあつたのである。而して何時でも、余の蓄積を前拂するによつて、余は市場が提供する豫見に對するプレミアムにより、其の後の支拂の連續に於いて、余が節約せるよりも大なる高の契約を確保することが出來る。(ibid., pp. 277-279.)。

以上の引用文中に示されたる利子の泉源は現在と將來若しくは相異れる將來の時期に於ける一定の所得の流れの分配の變更に對する人々の所要に於ける相違である。(ibid., pp. 280-281.)。利子の他の泉源は勞働及び自然的動因の能率を增加する道具、機械並びに其の他の設備の形態に於ける蓄積せられたる資源の適用によつて生ぜしめら

る可き利潤である。ウィックスチードは、是れ等能率を増進するが爲めに案出せられたるものゝ生產は使用せらるゝこと短き貨物の増加から使用せらるゝことの長い貨物の増加への努力の轉向と毫も異なることのない節約の過程であるが、而も、そは前者と異り、單に所得の流れを分配し直すよりも寧ろ所得を増加するの結果を來すものであることを注意する。彼れに從へば、節約は(一)吾人が比較的朽廢し易き貨物若しくは急速に成熟せしめらるゝ貨物の貯へを増加するが爲めに適用せらる可かりし資源及び努力の適用によつて吾人が比較的永續的なるもの又は成熟せしめらるゝこと遲きものゝ貯へを増加し、又(二)吾人の目的を確保する比較的直接の手段から（吾人が既に有する道具及び裝置を使用するによつて）之れを確保する比較的間接なる手段へ精力及び資源を偏向せしむる（道具及び裝置に是れ等のものを體現するによつて）に存するの觀がある。後者は必ずしも交換を包意するものではない。例へば、自己の使用の爲めに自己の土地を耕作しつゝある人が自己の網を造ることある可く、而して這般の場合には節約は其の將來の努力が是れに由つて一層生產的と爲る同一の人によつて遂行せらるゝことある可きが故である。而も或る人が節約に取つて比較的有利なる地位にあり、而して他の者が節約の結果を生產的ならしむるが爲めに比較的有利であることが起り得可く、又慥かに頻々として起るであらう。斯くて余の經常費から、余の欲望の直接滿足から、道具の構成に一定の高を轉向せしむるは汝の側に於いて存す可きよりも余の側に於いて比較的少なる苦痛を惹き起すことある可く、而して汝は、之れに反し、余が是れ等の道具を適用することを得可き如何なる用法によつて余の努力の能率が増加せしめらるゝよりも以上に是れ等のものをして汝の其れを増加せしむるように之れを適用するを得るであらう。這般の場合には、斯くの如くして確保せられたる増加產額は、そが節約の比較的苦難なる過程に對して汝に報償するよりも以下であるに反し、比較的輕易なるものに對して余に報償するよりも以上なる可きである。是に於いて乎、余が余の節約が體現せらるゝ道具を汝に讓渡し、而して汝が汝に對して生ずる收入の全増加よりも幾分少なきものを余に交付するとしたならば、余は滿足せしめらるゝを得可く、又汝は顯然たる利得を有するを得可きである。(ibid., pp. 282-284.)。

而して著者は茲にも亦、限界的重要性遞減の法則が頗る明白に作用するものと觀る。道具及び裝置の連續的増加量は或る一定點以後は猶ほ努力及び資源の能率及び經濟を増加するも、而もそは遞減的割合に於いて是れ等のものを増加す可きである。(ibid., p. 284.)。例へば、一製造業者は機械及び設備の改善に費さるゝ一萬磅が其の從業員團及び資料の能率を一ヶ年一千磅増加するを得可きことを發見するとする。恐らく、更らに他の一萬磅を費すに由つて、彼れは猶ほ其の以上に是れ等のものゝ能率を増加するを得可きであるが、多分其れ以上の附加は一ヶ年一千磅に昇らずして、僅かに五百磅に達するに過ぎざる可きである。斯くて彼れは六分を以つて一萬磅を借入るゝを有利とするも、二萬磅を借入るゝを有利と見ることなかる可きである。然しながら、重要性の減退は徐々であつて、彼れは一萬磅の増加量に限定せらるゝことなかる可きである。第二の一萬磅の最初の部分は一割以下なるも、而も六分以上の率に於いて生產高を増加するの力を有するを得可く、斯くて又其れ以上の高の一定部分は借入れらるゝであらう。略言すれば、其の製造業者が前借（即ち集中せられたる、若しくは蓄積せられたる資源の直接使用）を取得し得る利率如何を問はず、増加せらるゝ裝置の生產的能率と市場に於いて之れに對して支拂はれざるを得ざる價格との間に平衡が保たれなければならぬ。(ibid., pp. 284-285.)。

ウィックスチードは次いで現存しつゝある蓄積に對する諸競爭者に就いて述べたる後（ibid., pp. 285-286.）、次きの如き叙述を以つて其の論議の此の部分を結ぶ。曰く「吾人は今や或る人が現在の富の領有に對して將來の富に

於いて打歩を契約せんとしつゝあることある可き種々なる場合を檢討した。而して二個の點が既に判明した。第一、這般の希望に對する或る人の理由が縱令ひ何であらうとも、彼れは同一若しくはあらゆる他の理由に對して同樣の契約を締結せんとしつゝある總べての他の人々と競爭することゝ爲る、即ち彼れは其の相對的スケールの上に於いて將來の富の一單位が斯くの如き位置を占むる理由如何に拘らず、そが現在的富の一單位よりも低き位置を有する總べての者と競爭することゝ爲るのである。（中略）。第二、彼れが其の收受する全前借に對して事實上支拂はざるを得ざる可き打歩は、彼れが之れ無きを忍ぶよりも速かに其の或るものに對して支拂はんとしつゝあつた所のものに據らずして、市場に於いて働く集合的諸力の合成たる將來的富に於いて量定せらるゝ現在的富の均衡價値によつて決定せられる。此の合力は共同的スケールの上に於ける現時に於ける一單位（a unit-at-the-present-time）の位置に對して相對的に、將來に於ける或る一定時に於ける一單位（a unit-at-any-given-time-in-the future）の其れを表示する。あらゆる人は自己のスケールの上に於ける限界的諸單位の重要性をして此の合力と一致せしむることが出來る。均衡の狀態に於いてはあらゆる個人は斯くの如く行つた、而して均衡の存せざる所に於いては、あらゆる個人は之れに接近するによつて取得す可き或る物（彼れ自身の算當に於いて）を有する。斯くの如きは市場の普通法に過ぎざるものである。斯くて吾人は利子の現象を吾人の一般法に服せしむるに成功した」と。（ibid., pp. 286-287.）。

然しながら、道具が價格を收得するは、そが蓄積（即ち、當座の欲望に直接役立つことから資源及び努力の過去に於ける轉向）を表示するが爲めではなくして、そが能率の泉源として現在及び將來に於いて價値を有するが故である。之れを取得するが爲めに過去に於いて幾許が犧牲たらしめられたにしろ、そは單に其の價する所のものに對して賣らる可きである。而してそが偶々著しく價値あるに至つたならば、そは其の歷史から全然獨立して其の價格を收得す可きである。若し或る道具が天から落下するか、若しくは地中から湧出し、而して社會が或る一定の人に其の隨意に之れを破壞し、之れを使用し、若しくは他の人々が之れを使用することを許容し又は阻止する法律上の權利を賦與したならば、其の支配が之れを利用する如何なる者に對しても與ふ可き餘分の資源の高によつて決定せらるゝ價格に對して彼れは之れを賣却することを得たであらう。總べての自然の力は、其れ等のものが不充分なる定量に於いて利用せらるゝ限りに於いては、茲に注視せる狀態に該當するの觀がある。而して「土地」が大地の表面に於ける單なる空間を意味するものと解せらるゝ限りに於いては、そは同樣に看做されなければならぬ。然しながら、吾人が日常生活に於いて「土地」によつて意味する所のものは、極めて多く、恰も犁に於けると等しく、其の中に努力が貯藏せられた生產物であつて、商工業の見地よりすれば是れ等のものゝ間には何等の相違も存せざるが如くである。「土地」は全然自然の賜として看做さるゝと、若しくは半ば製造せられたる物品として看做さるゝとを問はず、恰も道具の有するに等しき其の限界價値を有する。そは其の限界的年產出高に對して賃借せられ、又は是れ等年產出高の無定限なる連續の算當せられたる重要性に對して購入せらるゝを得ること宛も發動機又は家屋が然かせらるゝに等しい、而してそは小麥若しくは直接に人間の滿足に貢獻するを得る他のあらゆる物に對して同一原理の上に均衡せしめらる可きである。（ibid., pp. 289-290.）。

九

ウィックスチードは更らに「市場」の續論として「收得」（Earnings）を論ずる。彼れは「勞働市場」（labour market）なる名辭の使用を避け、而して賃銀よりも寧ろ報酬又は收得に就いて云々せんとする。勤務又は努力の市

場は市場の一般法則に從ふ。人的の努力に於ける市場は、努力が有生若しくは無生の或る物質的物件中に體現せらるゝに非ざれば、貯藏せらるゝを得ざるの事實によつて特性附けられる。斯くて又、そは之れに對する能力が發生せる際に使用せらるゝことがなかつたならば、廢物と爲る。商的には、契約者は人々を採用し、又は解雇するによつて其の支配する流れを廣げ若しくは狹め得ることは疑ひなき所であるが、而も吾人が云々しつゝあるは此の流れではない。(ibid., pp. 320-321.)。加之、多くの場合には有效なる留保價格を維持することが保有者に取つて不可能である。(ibid., pp. 322-324.)。而して又、之れを其の泉源から引き離すことが(體現せらるゝに非ざれば)不可能である。人間の努力は恒に又直接に人間の意志の支配を受ける。固より總べての賣買及び交換は人間の選擇權の行使なるが故に、李及び馬鈴薯も亦、然るのであるが、而も、李及び馬鈴薯は少くとも何等彼れ等自身の意志を有することがない。是れ等の制限の下に於いては、市場の法則は人間の努力相互並びに貨物との交換を支配する。(ibid., p. 325.)。

然しながら、人間の努力に對する市場は、休養の必要及び面倒なる努力に對する厭惡の如き非經濟的考察の影響、努力の市場は屢々著しく投機的であつて、契約せらるゝ勤務が實際に果す可き所のものに關し往々にして存する不確實、並びに人間的原料の生產と等しく、其の種々なる市場の間に於ける人間的努力の分配は貨物の供給が其の需要に應答するに類する程度に於いて需要に應答することなきの事實によつて屢々不完全である。(ibid., pp. 325-337.)。是れ等並びに其の他の理由に據つて、人間の努力の價格は貨物に於けるが如く、さまで嚴密に限界的重要性に於ける動搖に從ふことがないのであるが、而も相違は市場の法則に對する應答性の程度の其れであつて、人間の努力を這般の法則の支配から移すものではない。(ibid., p. 338.)。勞作者の報酬が如何に高くとも、そは經濟力によつて限界に於ける彼れの勤務の算當せられたる價値よりも何等高く決定せらるゝことが出來ず、又そが如何に低いことがあらうとも、そは是れ等の經濟力によつて這般の限界價値よりも何等低く抑壓せらるゝことを得ない。斯くて吾人にして若し或る一定種の勤務が公開市場に於いて過分に、若しくは不充分に支拂はるゝと稱するならば、吾人は或る理想的概念に從つて云々するものでなければならない。(ibid., p. 339.)。

產業上の諸問題を考察するに當つては、吾人は須らく、或る一定の人、若しくは人々の階級が常に「不充分に支拂はるゝ」、換言すれば、常に彼れ等の爲す所のものに對して限界に於いて他の或る者に對して價するよりも少なく取得するとしたならば、斯くの如きは經濟力に基くに非ずして、彼れ等の途を妨ぐる一定の障礙に歸せざるを得ざるの事實を會得す可きである。疑ひもなく、或る人が彼れの價するだけを價するは經濟力の作用に基くものであらう。例へば、彼れは窮乏又は貪欲の壓迫を受けて、其の親によつて十分に食を與へらるゝことなくして、早く骨の折れる不熟練なる仕事に從事せしめらるゝことある可く、斯くて又彼れは弱き力と不十分なる訓練とを有することがあるであらう。而して或る一定社會の經濟狀態は斯くの如き結果を生ずるに資する底のものであることがあるであらう。然しながら、經濟力は其の在るがまゝの或る人をして彼れの仕事の他の人々に對する價値を表示するよりも低き報酬を收受せしむることを得ないのである、蓋し經濟力は常に是れ等他の人々を驅つて、そが彼れ等に對して價するよりも少なきものに對して彼れ等が取得し得るあらゆる物を購入せしめつゝあるものであつて、斯くて若し一個人（若しくは個人の階級）の仕事が、彼れが現在其れに對して收受しつゝあるものよりも多く價値ある可き或る一定の人々が存したならば、經濟力は彼れ等を驅つて更らに高き條件を提供せしめ、斯くて又其の勤務を確保せしめる。(ibid., p. 340.)。洵に經濟力はあらゆる者の努力が限界に於いて他のあらゆる者に對して、價するだけ

を市場に於いて之れに確保するの傾向がある。而も是れに由つて彼れは是れ以上に何等の要求權をも有しないとか、又は彼れの限界價値は增加せらるゝを得ないとか云ふことゝはならないのである。(ibid., p. 315.)。

十

以上諸種の市場に關する諸章に於いて利子、地代、賃銀及び利潤を說明せるウィックスチードは本編の末章に於いて「分配」及び交換價値に對する「生產費」の關係に關する問題を論ずる。分配の問題は、そが總體に於いて、若しくは原點に於いては、相互に代位せらるゝこと能はざる所望の結果の生產に於ける諸要素の限界に於ける平衡及び相互的代位を包含する限りに於いて、資源の個人的投費の問題と類似してゐる。余が欲望する所のものであり、且つ交換場裡から取得し得るあらゆる物は其の市場價格を有する、換言すれば、そが余の欲求することある可き他の物件に對する交替物として取得せられ得る條件が存する。余の資源にして與へらるゝならば、余が決定しなければならぬ問題は是れ等のものゝ限界的重要性の總べてを其の夫れ夫れの價格と平衡せしむるが爲めには余は幾許を各貨物に費す可きであるかに存する。扨て、吾人は全體として考へられた水の供給と文學の供給とを交替物として考ふることを得ないのであるが、而も其の限界に於いては是れ等のものは完全によく交替物たるを得可きである。水道會社は庭園の蛇管（ホース）に對して餘分の料金を課することある可く、而して余は余が水の餘分の供給を取得して、餘分の料金を支拂ふ可きか、若しくは之れを取得することをせずして、其の金を一志若しくは一志六片の古典に費す可きかを考慮するとある可きである。斯くて余が比較的に大なる數量に於いて、又比較的に小なる單位に於いて購ふ物品の總べての供給は其の限界に於いては明瞭且つ直接なる交替物である。而して、製造企業は其の全體に於いては相互に代位せらるゝこと能はざる一定の諸物件を要求するであらう。其の企業は工業が執行せらる可き一の場所、肉體的及び智力的なる人的精力の一定の出力、加工す可き原料、道具及び裝置並びに石炭、瓦斯若しくは水の如き其の過程に於いて消費せられ若しくは變形せらる可き補助的實體を支配しなければならぬ。而して恐らく是れ等諸物件の孰れのものと雖も全然廢せらるゝことは出來ず、又其の地位は他の孰れのものによつても取つて代らるゝことを得ない。而して這般の集團のあらゆるものゝ限界內に於いても、殆んど相互に代替せらるゝことを得ない必需品の種々なる部類が存するであらう。而も猶ほ制限內に於いては、是れ等の生產要素の最も外觀上相異れるものが限界に於いては相互に代替せられ、斯くて又生產上に於ける限界的有用性（marginal serviceableness-in-production）の共通の尺度に致さるゝことが出來る。(ibid., pp. 360-361.)。

次いで、著者は生產の諸要素を以つて土地、勞働及び資本と做す通俗的區分若しくは分類が理論的見地よりすれば、甚しく不滿足なる所以を述べ、(ibid., pp. 365-366.)、縱令ひ吾人が滿足に生產の諸要素を列擧し、分類するに成功することが出來たとしても、斯くの如き區分は何等理論的重要性を有することなかる可しと做し、而して更らに精細に分配の諸法則及び企業家の職能を檢討せんとするに際しては、吾人は全然生產諸要素を分類せんとする總べての企圖を無視す可きであると說いて、(ibid., pp. 366-367.)。企業家の問題に入る。假設によつて、企業家は限られたる資源を取扱ひ、而して是れ等の資源を適用して彼れは交換場裡から貨物、勤務及び特權を引き出し、而して其れ自體、引き出されたる要素若しくは成分の其れよりも高き價値を以つて交換場裡に復歸せしめられ得る底の結果を生ずるように是れ等のものを結合し支配しなければならぬ。彼れは恰も主婦若しくはあらゆる他の管理者が其の投費の結果を最大ならしめんと欲すると等しく、這般の結果を最大ならしめんとする。而して主婦は最初の增加量を以つて當然のことゝ看做すに拘らず、其の注意が限界的重要性の上に定置せらるゝが如く、企業家は土

地、勞働、道具其の他の生産要素の原點に近き初めの增加量を以つて當然のことゝ看做すも、而も各々が最早獨特にして置き換へ得ざるものに非ずして、或る代替物によつて等しく良く致さるゝを得る勤務を遂行する限界に於いては、彼れは周到に是れ等のものを對比し、而して其の市場價値に於ける最少の變化は彼れをして一のものゝ僅少部分を他のものゝ僅少部分に代へしむることある可きである。(ibid., p. 367.)。生産諸要素の相異れる結合よりして同一の物質的産物は生ずることがあるであらう。而して一つのものゝ限界的控除は他のものゝ限界的附加によつて償はるゝことある可きが故に、是れ等のものは總べて共通の尺度に歸せしめられ、相互の名辭に於いて表明せられ、斯くて又共通單位の名辭に於いて合計せらるゝを得可きである。而して吾人が是れ等諸單位の高によつて生産高を割つたならば、吾人は各々の爲めに要求せらる可き配分を決定す可きである。(ibid., pp. 368-369.)。

最後に論究せらる可き問題は交換價値に對する生産費の關係の其れである。一物件が費せる所のものは其の價値を決定することを得ないが、而も一物件が費す可き所のものは、そが作成せらる可きか否かを決定することがあるであらう。そが限界に於いて價するよりも以上に之れを作成するが爲めに費用が掛つたとしたならば、そは再び斯くの如く多量に作成せらるゝことなかる可く、又之れを作成するが爲めに費されたよりも以上に限界に於いて價したならば、そは更らに大なる數量に於いて作成せらる可きである。斯くて、價格と生産費との間には均等に歸せんとする不斷の傾向が存するのであるが、而も後者が前者を決定するが爲めに然るのではない。是に於いて乎、生産費は資源が此の、若しくはあの特殊目的に充てられたと云ふ歴史的な取り返しのつかぬ事實の意味に於いては、生産せらるゝ物件の價値の上に何等の影響をも有することなく、斯くて又、其の價格を動かすことがない。生産費は、今此の特殊の物品を生産するが爲めに孰れが放棄せられなければならぬかを決定するの餘地猶ほ存する代替物の意味に於いては、工匠が之れを生産す可きか否かを決定するに際して彼れに影響する。斯くて生産せらるゝ際に於ける椅子の價格は集合的スケール上に於ける其の限界的地位によつて決定せらる可きであるが、椅子の代りに製造することが猶ほ彼れに取つて妨げなき他のあらゆる物の地位と比較して、其の地位が如何にある可きかに關する製造者の豫想は彼れが是れ等のものを製造するか否かを決定す可きである。(ibid., p. 380.)。

著者は又、生産費が往々にして、生産者の所爲の上に、經濟力には非ざるも、而も有效なる力たる感情的反動を及ぼすことあるを注意する。誤れる判斷を爲して、費用價格に於いて販賣すること能はざる物件を生産せる企業家は彼れの過誤を承認するを欲せずして、其の行爲を是認するに足る高價を確保せんとして奮鬪す可きである。斯くて彼れは彼れが辛棒して待つも、更らに良好なる價格を取得する充分なる見込を有せざる際に於いてすら、費用以下に或る物件を販賣するを躊躇することがあるであらう。(ibid., p. 386.)。又、低價格は往々にして發明及び經濟を刺激するによつて生産費を低下する上に眞實の結果を生ずることがあるであらう、蓋し人は其の財産を增加するよりも破滅を免るゝが爲めに、より烈しく奮鬪す可きが故である。(ibid., p. 388.)。

次いで著者は蒙らしめられた過去の生産費と見積られた將來の生産費とを區別し、(ibid., pp. 389-390.)、而して後に於いて曰く、如何なる場合に於いても、一貨物が生産せられ、而して費用が蒙らしめられたとしたならば、生産費は其の貨物の價格の上に何等直接の影響をも有せざるものであるが、而も生産費が未だ蒙らしめられなかつた總べての場合に於いては、製造業者は其の貨物が生産せらる可きや否や、又如何なる分量に於いて生産せらる可きやを決定するに先立つて、猶ほ彼れに取つて自由なる交替物の算當を行ふ、而して斯くの如くして決定せらるゝ供給の流れは限界價値及び價格を確定すると。是に於いて乎、生産費が一物件の價値に影響し得る唯一の意味は、

そが其れ自身他の物件の價値であると云ふ意味である。斯くて效用、ophelemity、若しくは desiredness など種々に名附けられた所のものは總べての交換價値の單一にして究竟の決定者である。(ibid., p. 391.)。

ウィックスチードは今や其のゴールに到達した。彼れは總べて吾人の商的及び私的生活を通じて選擇に關する心理學の大法則の同一性を探求し、吾人が關心を有せしめらるゝ吾人の文藝の趣味に其れ以上に耽溺すると社會運動を其れ以上に支持するとの間に選擇を行ふ原理は吾人が市場に於ける種々なる商品の間に選擇を行ふ其れと同一なること、吾人の資源は吾人の目的に對して直接に適用せらるゝと間接に適用せらるゝとを問はず、同一原理の上に管理せらるゝこと、市場率の前に於ける吾人の所爲は其れ自體是れ等の率が如何にして構成せらるゝかを說明すること、並びに自己の目的を成就せんとするあらゆる人の願望は絕えず彼れを促して他の人々の其れを成就するの手段を探り出さしむることを明かにしたのである。而して彼れは彼れが今や研究し解析し終れる產業及び商業界の運動の略圖を記して「體系的及び構成的」(Systematic and Constructive)と題する其の著の第一編を終る。(ibid., pp. 392-398)。

十一

彼れは第二編「枝論的及び穿鑿的」(Excursive and Critical) に入つて、第一に諸限界及び其の圖表的表現、第二に滿足の範圍及び限界的重要性を表示する圖表的方法、第三に全部的滿足曲線の性質、第四に買手及び賣手、需要及び供給、第五に「收益遞增及び遞減」の理論、第六に地代法則及び其の含意の圖表的說明、第七に、銀行、手形、通貨に就いて論じ、第三編「分析的及び實際的」(Analytical and Practical) に於いて、彼れが是れ迄研究しつゝあつた諸原理を社會的及び產業的世界の種々なる現象の分析に適用し、其の價値を檢討して其の著を終る。

本書は一千九百三十三年、倫敦大學經濟學敎授ロビンス (Lionel Robbins) の緖言を附し、經濟理論に關する彼れの諸論文及び評論と共に二卷に分冊せられて新たに出版せられてゐる。前揭 The Common Sense of Political Economy and Selected Papers and Reviews on Economic Theory by Philip H. Wicksteed, M. A. が是れである。

彼れは一千九百十三年バーミンガムに開かれた英國協會F部の議長に選擧せられ、其の就任の辭の題目として The Scope and Method of Political Economy in the Light of the "Marginal" Theory of Value and Distribution. を選んだ。此の就任の挨拶は The Economic Journal. 一千九百十四年三月號に登載せられてゐる。(ibid., Vol.XXIV, No. 93, pp. 1-23.)。彼れは又、ヒックスの編纂せる『バルグレーヴ經濟學辭典』の第二版に "Degree of Utility", "Dimensions of Economic Quantities", "Final Degree of Utility" "Stanley Jevons", "Final Utility"; "Political Economy and Psychology". の項目を執筆し (Vol. I, pp. 536-537; pp. 583-585; Vol. II, pp. 59-61; pp. 474-478; pp. 857-859; Vol. III, pp. 140-142.)、又、一千九百十三年 The Economic Journal. 誌上に於ゝヒス・ジェ・チャップマン(S. J. Chapman) の Home University Library of Modern Knowledge 版 Political Economy. を (Vol. XXIII, No. 89, pp. 72-75.)、又同年同誌上に於ゝてダヴェンポート (Herbert Joseph Davenport)の The Economics of Enterprise. を論評した。(Vol. XXIV, No. 95, pp. 421-425.)。

尙ほ經濟書以外には、若き人々の爲めの聖書翻譯六卷、ダンテ『神曲』中の『天國』(Paradiso) の翻譯及び註釋、ハウェル (Ferres Howell) との共譯ダンテの『宴會』(Convivio)、ガードナー (Edmund Gardner) との共譯ダンテの拉典諸作、Dante, Six Sermons; Henrik Ibsen; Religion of Time and Religion of Eternity, 1899;

フイリップ・ハンリー・ウイックスチードの『經濟學の常識』

Dante and Del Virgilio; Dante and Aquinas, 1913; Dogma and Philosophy. A Study of Aquinas, 1920; From Vita Nuova to Paradiso, 1822. 等がある。

前號（第三十一卷第三號）目次

◉戰爭の本質と起源　加田哲二
——戰爭社會學序說——

◉世帶構成に現はれた地域性　奥井復太郎
『三田』社會調査報告第三

◉原始時代の財産制　望月玉三

◉古版經濟書解題　高橋誠一郎
ジョン・クック著一千六百四十八年版『唯一緊要事、一名、貧民の脈訟』

◉地主と地借—武藏國八町目村一件　野村兼太郎
（社會經濟史資料紹介）

◉ラツラフ著「自由競爭の理論」　氣賀健三
——Ratzlaff, "The theory of free competition" Philadelphia, 1936.——

◉E. Zweig, Economics and Technology, London 1936.　藤林敬三

◉ヅーリン著「フロンド黨」　下田博
—— Paul Rice Doolin, The Fronde, 1935. ——

●一冊定價金五拾錢
●半ケ年分金貳圓九拾錢
●一ケ年分金五圓四拾錢
郵稅金壹錢五厘
郵稅共

●編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛
●營業に關する用件は發賣元宛
●原稿締切期日は發行の前月十日限

昭和十二年三月廿一日印刷納本
昭和十二年四月一日發行
毎月一回一日發行

三田學會雜誌
禁轉載
第三十一卷第四號

東京市芝區三田二丁目二番地慶應義塾内
編輯兼發行者　江田範保
東京市赤坂區新町五丁目四十二番地
印刷者　金子鐵五郎
東京市赤坂區新町五丁目四十二番地
印刷所　金子活版所

東京市芝區三田二丁目一番地
發賣元　丸善株式會社三田出張所
電話三田(45)一一九二六番
一一九二七番
振替口座東京一一八五二番

●尚ほ本誌は全國各市雜誌店にて販賣す

發行所　東京芝三田慶應義塾内　理財學會
振替口座　慶應義塾　芝區三田二ノ二　東京一八二〇四番